

ハンティ語の音声音韻の特徴について^{i / ii}

—— 言語フィールド調査データからのまとめ ——

Notes from the first research on Khanty language

松 本 亮

Ryo Matsumoto

Abstract

In my very first linguistic field research for Khanty language in Salekhard, Yamalo-Nenets Autonomous Okrug, Russia, which belongs to the Ugric languages of Uralic languages family, 100 basic words have been recorded. In this research note I attempted to construct the phonemic inventory and to indicate some problems of Khanty language, the Shuryshkar dialect. Finally I suggest the aspects from which the further linguistic research should be done.

キーワード：フィールド言語学，音声学，ハンティ語，シベリア少数民族，ネネツ語

1. はじめに



地図1 ハンティ語の話されている地域（ロシア連邦内）

表1 ハンティ語の方言区分

西方言	オブドルスク方言	ウスチ・ポルイ方言
		ウスチ・ソブ方言
	沿オビ川方言	シュリシュカル方言 ^{Sh}
		カズム方言 ^K
		オビ川中流方言 ^O
	沿イルティシュ川方言	イルティシュ方言
東方言	スルグート方言 ^S	コンジンスコエ方言
		デミヤンスコエ方言
		ユガン方言
	ヴァハ・ヴァシユガン方言	サリム方言
		ヴァハ方言 ^V
		ヴァシユガン方言

ハンティ語は、ウラル語族ウゴル語派に属する言語で、ロシア連邦は西シベリア地域に広く居住する民族である。シベリアのツンドラやタイガ（極北森林地帯）においてトナカイ飼育や漁猟を伝統的生業としているが、近年に至ってはハンティ・マンシ自治管区やヤマロ・ネネツ自治管区でのガス開発による都市化も進んでいる。ウゴル語派に属する言語としては、ハンガリー語とマンシ語がある。ハンガリー語は、古い時代に分岐しヨーロッパへと移動していった民族であると言われている。またマンシ語はハンティ語と言語系統的にも地理的居住地域も隣接してるが、話者数はハンティ語よりもはるかに少数で、両者の間の言語的相互理解度も低い。一般的なハンティ語の方言区分は表1のとおりである。

表2 ハンティ人とハンティ語の言語使用状況（ロシアにおける2010年の国勢調査より）

地域	民族 総人口	出来る言語				母語		
		ロシア語	ハンティ語 (マンシ語)	ネネツ語	コミ語 ⁱⁱⁱ	ロシア語	ハンティ語	ネネツ語
ハンティ人 30,943 (母語保持率 11,241/30,943= 36%)								
ハンティ・マンシ自治管区	19,068	18,757	3,268 (16)	83	24	13,855	5,003 26%	7
ヤマロ・ネネツ自治管区	9,489	9,267	5,361 (5)	383	96	3,438	5,922 62%	93
トムスク州	718	715	26	－	－	696	22 3%	－
スヴェルドロフスク州	138	138	9	－	－	121	15 11%	－
コミ共和国	48	48	－	－	2	37	－	－
ネネツ人 44,640 (母語保持率 32,640/44,640= 73%)								
ハンティ・マンシ自治管区	1,438	1,426	112 (13)	282	38	918	24	371 26%
ヤマロ・ネネツ自治管区	29,772	26,425	225 (1)	16,390	266	3,360	64	26,022 87%
ネネツ自治管区	7,504	7,430	－	750	381	4,297		2,697 36%
コミ共和国	503	447	－	273	70			
クラスノヤルスク州 (含タイムル半島)	3,633	3,306	－	1,650	－	753		2,846 78%
ムルマンスク州	149	149	－	－	19	128	－	－
ペテルブルク市	109	25	－	29	－	57	－	41

表2は、2010年のロシア国勢調査に基づくデータから、民族としてのハンティ人の人口と、ハンティ語使用状況を表すデータを示したものである。総人口約31,000人に対して、ハンティ語が母語であると答えた人数が11,000人ということがわかり、そこから母語保持率が約36%と割り出すことができる。一方、母語保持率は地方によっても差があることがわかる。今回調査に入ったヤマロ・ネネツ自治管区では62%という比較的高い状況であるが、ハンティ人の多くが居住するハンティ・

マンシ自治管区では逆に26%という低い数字が出される。ハンティ人と隣接して広がるネネツ語(同じウラル諸語に属すが、サモエド諸語に下位分類されている)の状況を見ると、母語保持率73%という大変高い数字が見られているのは、ハンティ語の状況とは対照的である。一方、これら二つの言語は、相互に相手の言語を“話すことができる”と答えている人が200~300人いることも示されており、民族的な接触をうかがいしることができる。

表1にすでに示したように、ハンティ語はいくつかの方言に分類されており、相互の違いは発音や語彙の面でとても大きいと言われている。また同じ方言とされているものであっても、記述される文献によって使用する文字や、文字の綴り方が異なっている。例えば、表3は各方言での1から10の数詞について、文字表記を対照させたものである。1行目のSh, O, K, S, Vはそれぞれの表1の方言に対応する。また、Sh1, Sh2, Sh3のように同じ方言でも出典が異なることを表し、それぞれどの文献によるのかは参考文献に示している。これを各方言に中でもさらに下位分類が必要な違いと見るのか、同じであるが表記する人(多くは言語学者や民族語教育に携わる教師が記述している)による単なる表記の違いと見るかは、個別に検討しなければならない。以上のように、先行研究や言語学的資料はあるものの、実際の音声実態はそこからだけでは掴みきることができない。

表3 ハンティ語の各方言における数詞の文字表記の対照 (* = приуральский говор)

	Sh1	Sh2	Sh3	O1	O2	K1	K2	S1	S2	V
1	йи, ий, и	и, ит утся, уча	ит	ит	ит, ий	и, ит	йи, ит	ий	ый	эй
2	кйт, йтлэм	кат, катн	катн	кйт	кат(н)	кат(н)	кйт(н)	катхэн	катхэн, каткан	кйткэн
3	хулэм	хулам	хулм	хутум	хутым	хэлум	хэл'өм	булэм	колэм, котлам	булэм
4	һал	нял, *нил	нял	нят	няты	нял	нял'	һьэлэ	һьэлэ, нитлы	һьэлэ
5	вет	вет	вет	вет	вет	вет	вет	ват	вэт	вет
6	хут	хут	хут	хут	хут	хэт	хэт	бут	кут, кут	бут
7	лапэт	лапат	лапат	тапыт	тапыт	лапат	л'апыт	лапэт	лапэт	ләвэт
8	һийэд	нийд	ниил	нигыт	нивыт, нювты	нивал	нивыл'	һьылэ	һьылэх, нитлан	нилэх
9	йärtйаң	яртгьяң *ертгьюң	яртгьяң	яръяң	йиръяң	яртгьяңг	яръяң	ирьең	ирьең	эйärtйöң
10	йаң	яң, *юң	яң	яң	яң	янг	яң	ең	ең	йöң

筆者は、現在はヤマロ・ネネツ自治管区サレハルド市を中心として、主にネネツ語を研究対象として調査をしている。ネネツ人は広く西シベリアやウラル山脈方面へトナカイ放牧を行っており、その際、周辺民族であるハンティ人やコミ人と共同して放牧を行うことがあるという。また、サレハルドを中心とするヤマロ・ネネツ自治管区では、ネネツ人のほか、ハンティ人、セリクプ人を先住民族として保護しており、地元の放送局(テレビ・ラジオ、新聞)では、ネネツ語にくわえ、ハンティ語による放送もおこなっている。オビ川沿いにネネツ人とハンティ人の村落が相互に入り混

じって形成されているという話であった（例えば、元々はハンティ人の住む村落であったというサレハルドは、ロシアのシベリア征服で都市が築かれ、今はヤマル・ネネツ地区の中心、さらにはネネツ語の中心的都市の一つになっている）。以上から、ネネツ語にとってハンティ語は民族接触、言語接触から相互に影響を与えている相手であり、重要な言語と考えるようになった。そのような中、2018年9月の調査の際にハンティ語話者（女性、60歳前後、シュリシュカル方言話者）と会うことができ、初期的な音声調査を行った。本稿は、その初期的な言語音声データから音声学の記述を行い、そこから音韻論的分析を試みたものである。今後もハンティ語聞き取り調査を続け、語彙目録の音声実態のみならず、形態音韻変化を考察していく上で、その出発点となる基礎的な分析を目指している。

2. ハンティ語シュリシュカル方言の音声音韻について

今回の調査で得られた基礎語彙100語の音声実態は稿末の資料に挙げてあるとおりである。厳密な手法での音韻分析には足りないが、すでにいくつかある先行研究や辞書などを参考に、現在のところ立てうる音素一覧は下のように考えている（音素形式は立てておらず、括弧[]で異音とみなせるものをまとめている）。

<u>母音</u>			<u>子音</u>			
[i]	[i~u]	[u~o]	[p~b]	[t~d]	[k~g]	
[e~ε]	[ɔ]		[v]	[s~z]	[ʃ]	[x~ɣ]
([ə])			[m]	[n]	([ɲ])	[ŋ]
[a]			[r~r]			
			[l] [t~ʃ~d]			
			[j]			

母音について

ハンティ語には長母音と短母音に別対の対立の有無があるのかについては問題である。母語話者も認識する長短の弁別によるミニマルペアは[o]と[o:]くらいである。それすらも出版している辞書にはあまり明記されておらず、同音異義語とされているのが普通である。音学的に長母音は観察されるが、第一音節に強アクセントがある時に長母音化するものがほとんどであると言え、音韻的に長短の対立があると言えるかまでは、今の段階では弱いと言わざるを得ない。

シュワー[a]を一つの音素と見るのは難しい。子音連続の間に添加される挿入母音や、アクセントのない音節の弱化母音と見る方が良い。

障害音の有声無声対立について

子音の音素体系は比較的簡素なものであると言える。特に、障害音系列に、有声と無声の弁別的対立はないと言える。傾向として語中や有声音間では有声化しやすいと言えるが、それも自由変異として無声音が出ることも珍しくない。

側面摩擦音の実現形について

ハンティ語の特徴として、側面摩擦音[h]が挙げられる。側面摩擦音[j]も音声としては観察され、先行研究では、この二つは別々の音素として立てられていることが多い。しかし、ミニマルペアは今回のリストではなかった。それどころか、明らかな借用語を除けば、側面接近音が音素として立てられるかには大きな疑問がある。まず、頻度として側面摩擦音の方が圧倒的に多いことが挙げられる。また、側面摩擦音の実現形には[h~ɣ~ɬ]のように、揺れが大きいことがある。典型的な無声側面摩擦音のみならず、有声であったり、前後に同一調音点の閉鎖性の音が伴ったり、あるいは、閉鎖音の後に側面破裂として聞こえたりするのである。一般的に、世界の言語をみたときに、言語類型論的に[j]と[h]とでは、明らかに後者の方が少数である。また、音素として /h/ がある場合には、/h/ も別に音素として持つ言語は相当すくなるのではないだろうか。この点は言語類型論的に考察してみる必要がある。

III と III' の対立について

先行研究での記述と比べて相違が残るのは、ロシア文字の III と III' で表される二つの音である。今回の語彙リストで、それぞれの相当する音を持つ語もあるにはあるが、聞き取りの範囲では差は感じられなかった。バイリンガルでもあるインフォーマントの母語の一つでもあるロシア語での音の違いを、反映して表記されている可能性もあるが、個別に詳細に比べる必要がある。

3. 結語

今回のデータに続き、2019年9月のサレハルドでの調査でも別のハンティ語話者からの聞き取りができた。まだ比較まではできていないが、聞き取り調査をしながら聴いた範囲では大きな違いはなさそうであった。初期的な音声調査であるため、語彙数が足りないことは十分承知している。そのため、今後の調査予定としては、語彙数を広げていくこと、形態変化とそれによる音交替を考えること、そして、先行研究や辞書で表記されている音や表記に問題がある例を取り出しリストを作成し、音韻論的な視点から検証していくことが必要であると考えている。そのうえで最終的な音素一覧を確立させ、現状のハンティ語表記との音対応をまとめていきたい。

【資料】ハンティ語シュリシュカル方言語彙の音声

No	日本語	音声表記	辞書表記 Sh1	他の方言表記 Sh2 他
01	頭	ox	ox	
02	髪	ox sɔx i:pit	ox cɔx упат	oxcɔx *упат, K2 опыт
03	目	se:m / se:mt	сэм	K2 сэм
04	耳	paɖ	пăд	пал, K2 пăл', О пат
05	鼻	pid	ньод	нѐд, V ньѐл
06	口	uŋɣitl	ўŋəл	уŋал
07	歯	pie:k / pieŋkit	пеŋк	
08	手	jo:f / jo:fŋən	йош	ѐш, *ѐс, K2 ѐш, V кѐт
09	指	lui ~ luij / luiɖ	лўй	луй
10	足	kur / kurt	кўр	кур, V кѐр
11	体			
12	血	ur	ўр	V вѐр
13	骨	lvv	лов	K2 л'ув, О тув, V лѐх
14	涙	se:uʔik		
15	父	a:ʒ(i) / a:ʒət	ащи	аси, K2 аси, S2 ачи, V эпын
16	母	antʔi o:ma	аŋти ома	аŋки, V эŋкă оми
17	兄	jai	йай	яй, V эт, V эти
18	姉	o:bʔi	опи	V ани
19	弟	xoa:pʃi	ху апщи	апси, V ɟаɟы
20	妹	nea:pʃi	нэ апщи	
21	息子	pɔx / pɔʔət	пох	S2 пах, V пѐх
22	娘	e:vʔi / e:vʔət	эви	V ѓхи
23	祖父	ona:ʒi o:pra:f(i)	ун ащи опрац	
24	祖母	una:ntʔi aŋkaʔantʔi aŋkaʔaŋka	ун аŋти аŋкаŋти аŋкаŋки	
25	孫	xi: ^d ʔi	хиды	K2 хыл'и
26	親戚	xa:nəm		
27	友	pid	пид	K2 пил'хə
28	民族	nir		
29	太陽	xatl na:i	хăтəл най	хатл, K2 хăтл'

30	月	tiliʃ	тыдәщ	тыдась, K2 тылыс
31	星	xo:s / xo:zət	хус	
32	雲	paləŋ ^k / paləŋət	пәдәŋ	падаŋ
33	雨	je:r je:rtəɫ	йэрт	ерт, V лэвәть
34	雪	lo:ʃ lo:ʃ pʰi:ʈəɫ	лоньщ	лоньсь, V чохәт
35	氷	je:k	йэҗк йуҗк	еҗл *юҗк
36	土	muv xor	мўв хор	
37	水	jik	йиҗк	K2 йиҗк, V йәҗк
38	風	vo:t	вот	V ват
39	火	tut	тўт	V төхәт
40	土地	mu:v	мўв	V мәх
41	川	joxan a:s	йохан ас	V йохән'
42	湖	lo:r tu:v	лор тўв	K2 мәл'ыҗ, V әмтәр
43	山	ke	кев (石)	(K2 реп)
44	海	ʃa:rs	шарәс	K2 сёрыс
45	トナカイ	u ^d li kada uɫʷli	ўды кәлаҗ унт ўды	вуды, K2 вул'ы, S2 вели, V вели
46	狼	a:təŋjaxtiot porvoĩ		
47	熊	moĩpor a:pʃije	мойпәр	V их
48	うさぎ	ʃo:wr	шовәр	K2 шовыр, V пўкины
49	りす	laŋgʷi	лаҗки	
50	ネズミ	na'npərvoi		
51	犬	ap / ampit	амп	Sh3 ап, S2 амп, V әмп
52	猫	kadi / kadiet	кәти	K2 кәти
53	馬	lo:v / lo:vət	лов	S2 лав
54	牛	mic / mizət	мус	S2 мэс
55	豚	pu:ɾʃ	пурәщ	
56	山羊			S2 отш
57	鶏	ʃiʃkurek	щишкүрек	
58	鳥	toxlənvait	тохдән вой	V пўтькәли

59	魚	xu˧˥	хўл	K2 хул', S кул, V ɟул
60	虫	voi xomlət	вой хомлэх	
61	蚊	peliŋə	пелџа	K2 пел'џа, V кџи
62	ブヨ	ɲiperu˧	ɲипару	
63	アリ	xaʃiŋə	хашџа	
64	ハエ	seːrə	сэры	
65	チョウ	labəʈa	лапата	
66	漿果 голубика брусника черника моршка кра.смородина чер.смородина	ləx mostələx ultələx sciupsa moːrəx ərtmoli ʃuːpʃi	рэх	注：(和訳) クロマメノキ コケモモ ブルーベリー ホロムイイチゴ 赤スグリ 黒スグリ
67	キノコ	tolx / tolxət	толэх	
68	草	torn	торэн	V пам
69	木	ju˧˥x / ju˧˥xət	йўх	K2 юх
70	葉	jux liːpət / liːptət	лыпэт	K2 лыпыт
71	花		лыпэт	
72	種子			
73	根	leːr	лэр	
74	大きい	uːn	ун	V əлдə
75	小さい	aːi	ай	
76	たくさん	aːr	ар	
77	少し	ʃiːmətʃ	шимэд	
78	高い	paʃ kaɾʃ	пăд кăрэщ	V oxəp K2 карысь
79	低い	leːɬ	лэл	
80	長い	xov	хўв	V ɟox
81	短い	van	ван	V vān'
82	重い	laːvəŋ	давəрт	
83	軽い	kʌn	кен	
84	幸せ	oi	ой	
85	見る	vaːtʃi ma vaːtləm	вантты	

86	聞く	xo:lŋti ma a:rt xo:ltlēm xo:lŋsēm xo:lt pitlēm	хулты	K2 хэл'ты, V җолта
87	知る	uiŋti ma oitlēm	уйәтты	Sh3 уятләм
88	知らない	ato:iŋti	ат уйәтты	
89	話す	potoŋti	потәртты	
90	歩く	ʃo:lŋti jaxti manti	йаңхты мәнты	
91	飛ぶ	po:rləlōti	порләты	
92	泳ぐ	o:zilati pi:verti	ушидыйты певәдты	
93	～だ	o:liti	улты (住む)	
94	行く	manti	мәнты	K2 мәнты
95	来る	joxŋti	йохәтты	
96	食べる	ʃe:ti	дәты	
97	飲む	ifti	йиңцты	
98	書く	xafti	ханшты	V җән'чынта
99	読む	luŋəŋti	луңәтты	V луңтанта
100	学ぶ	u:tlititi	утәдтәты	утадтыты

【参考文献】

- Вальгамова, С.И., Н.Б. Кошкарёва, С.В. Онина и А.А. Шиянова. 2011. *Диалектологический словарь хантыйского языка (шурьшкарский и приуральский диалекты)*. Изд.Баско, Екатеринбург. (ДСХ) [Sh1]
- Каткилева, М.Е., Е.Д. Каткилева и В.С. Кононов. 2011. *Русско-хантыйский разговорник (Сургутский и Шурьшкарский диалект)*. Интернат для детей из числа коренных малочисленных народов Севера, г. Муравленко. [S2]+[Sh3]
- Кашлатова, Л.В. 2010. *Русско-хантыйский словарь с картинками (Среднеобский диалект)*. Югорский государственный университет, Ханты-мансийск. [O1]
- Кулинич, Е.Д. 2000. *Русско-хантыйский разговорник (Сургутский диалект)*. Просвещение, СПб. [S1]
- Неттина М.А. 1998. *Русско-хантыйский разговорник (Ваховский диалект)*. Просвещение, СПб. [V1]
- Русская, Ю.Н. 1961. *Самоучитель хантыйского языка*. Изд.Просвещения РСФСР, Л. [K2](+ [O2])
- Сенгепов, А.М., Е.А. Немысова, С.П. Молданова, М.К. Волдина и Н.А. Лыскова. 1988. *Хантыйский язык: учебник для учащихся педагогических училищ*. Просвещение, Л. [K1]
- Скамейко, Р.Р. и З.И. Сязи. 1992. *Словарь хантыйско-русский и русско-хантыйский (Шурьшкарский диалект) – около 4,000 слов -, пособие для учащихся начальной школе*. Просвещение, СПб. [Sh2]

【注】

- i 本研究は JSPS 科研費 16K02707, 16H03417, 18H03578 の助成を受けたものです。
- ii 本研究ノートは, 2018年度ユーラシア言語研究コンソーシアム年次総会にて発表した内容を補足, 改めたものです。
- iii コミ語は, ハンティ語やネネツ語と同じくウラル諸語に属する言語だが, オビ川よりも西に広く広がり, 話者数も40万人以上いるシベリアにおいては“大言語”である。